



わの会通信

Ver. 31

◆ H28. 5. 10 発行 発行元：NPO 法人わの会 住所：府中市四谷 6 - 6 - 1 TEL/FAX：042-360-3626 ◆



ごあいさつ

外は緑が心地よい季節となりました。皆様お元気でいらっしゃいますか？

国の介護計画ではこの先も幾つもの困難が立ちふさがっています。 昨年は、国の介護潰しに負けないぞと力を合わせて頑張りました。皆様のお力添えを頂き、なんとか28年度のスタートをきっています。

振り返ればわの会はおかげさまで20年になりました。人が障害をかかえた時、高齢期を生きる時、そして子供たちも助けを必要としたとき、地域でその人らしく生きるための支え合いのわを作りながらここまでできました。制度と制度の谷間をつなぐ**ネットワークわの会**、ヘルパー不足に対応して、ヘルパー養成(昨年24人)する**研修事業**、集うことで元気になる**デイサービスりんりん**と**第2りんりん**、24時間365日の**ヘルパーステーションあいあい**、昨年からは**障害者相談事業**も開始されました。私自身も難病ALSを発症して20年になり、わの会の歩みは私の闘病の歩みでもあります。

私は、発症9年目で介護を受ける側から介護のあり方を学ぶために大学院へ。障害者が尊重され、高齢者が尊敬される社会をめざす介護論を目標としました。現在は、看護専門学校や大学の看護学部などで年間11校約1000人の学生に、自分の介護、受要論を語りながら私自身も学んでいます。数年後には看護師介護士として現場に立つ彼らの働く姿をイメージしながら、わの会理事長としての役割をかみしめるこの頃です。私は全スタッフに夢実現プロジェクトを作ろうと呼びかけています。手をつなぎ願いが実るわの会を築いていきたい。

最後に、昨年夏頃から自分達の生きる社会を自分達で変えようという運動が、全国に広がっています。政治の目的は全ての国民に光をあてること、とりわけ弱者に手厚い光をあてることです。上を向いて、胸を張って、頑張りましょう！

2016年5月 わの会理事長 佐々木公一





1. デイサービスりんりんの場所の検討

平成16年、1月1日に誕生したデイサービスりんりんから5年を経て、第2りんりんが出来ました。それからの4～5年は第2りんりんの利用者様が第1からの移行だったこともあり、同建屋内で2事業を運営しました。しかし、だんだん月日を経ると其々に所属している利用者様のニーズの違いがより顕著になって来ました。

りんりんのニーズ

「もっと歩けるようになりたい」、「今より筋力をつけたい」、「一人で外出できるようになりたい」、「はっきり発音できるようになりたい」など身体機能向上のニーズ

第2りんりんのニーズ

「出来ることは、時間をかけても自分でしたい」、「今までと同じ生活がしたい」、「洗い物などできる事をして、役に立ちたい」など日常生活行為継続のニーズ

ご家族から

「身体機能を低下させないで欲しい」、「自分で出来ることを長く行なって欲しい」、「寝たきりにならないようにして欲しい」、「認知症の進行を防いで欲しい」、「穏やかに楽しく過ごして欲しい」など

りんりんスタッフ

「一人一人のニーズをしっかりと掘み、ニーズに向けての身体機能訓練を提供したい」、「料理をするのが面倒になってきている一人暮らしの方に簡単調理の料理教室を提供したい」、「ニーズにあった作品作りを提供したい」

第2りんりんスタッフ

「一人一人のペースに合わせた、安心できる環境を作りたい」、「現状の日常生活行為を低下させないような訓練提供したい」、「時間がかかっても役割が達成できる支援がしたい」

可能な限り、一人一人の気持ちに寄り添って、其々の方のニーズに応えられるように“りんりん”と“第2りんりん”の施設も分離する方向を検討しています。

運営資金や場所の問題等、大きな課題もありますが、全スタッフの力を合わせて実現させて行きたいと考えています。どうぞ皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

2. 地域との交流を確かなことに

当法人では既に“第2りんりん”が地域密着型の小規模通所介護施設として運営されています。この度、平成28年4月より“りんりん”が地域密着型小規模通所介護施設へと変更となりました。従ってこれまで以上に地域との連携を図り、地域交流に力を入れて参ります。昨年行われた「餅つき大会」には、これまで以上に大勢の方々に参加していただき、楽しいひと時を過ごしました。りんりんも日新小学校の運動会に参加することが5年ほど前より、毎年6年生の皆さんが育てた菊の花を届けてくださっています。今後もこの交流を大切に継続しながら、地域に頼られ役立ち、地域の協力が得られるデイサービスを目指して行きます。

3. 美味しく暖かい昼食の提供を目指して

現在の昼食は“いなり木”弁当を注文しています。利用者様からも「本当に美味しい！！」と喜んで頂けていますが、中には普通の食事形態では食べることが難しい方がおり、そのため、食べやすい大きさに切る、柔らかいご飯やお粥を施設で作るなどもしています。今後もいなり木さんと施設とで食事提供について話し合いや改善を行いながら、更に皆様に満足していただける食事を提供していけるように協力して参ります。

(管理者 津田久美)



あいあいは、平成28年3月現在、利用者46人、ヘルパー64人でサービスの提供にあたっています。

近頃、視覚障害の方がご利用されるガイドヘルパーの新規依頼が多く、なかでも府中市の紹介を受けたという方が増えています。少し制度が変わったこともあり、前年度に比べ741時間のサービス提供時間が増えました。ガイドヘルパーの依頼は、定期的な固定での依頼（家事援助など）とは異なり、明日、明後日というような緊急を要する場合もあり、利用者の状態にあわせたヘルパー調整や、ガイドヘルパーに安心して外出できるよう、研修期間を十分にとり対応するように心がけています。

平成28年度は 次のように取り組んでまいります。

【今年度の計画・課題】

- ① 利用者満足度調査を実施し、利用者・ご家族様のご要望やご意見をケアに生かす。
⇒ コミュニケーションを十分に行うことで、行き届いたケアが出来るよう努力していく。
- ② 利用者ニーズに対応できるヘルパーの育成に努める。
⇒ 外部研修の参加や、個人別の仕事の振り返り、ヘルパー間のケアの統一等を図ることを目的としたスキルの交流を図る。
- ③ ヘルパーアンケートを元にした改善点の見直しをすすめる。⇒ 労働条件の改善や事務所体制の見直し等。

《ヘルパーアンケートから》

◆教えてほしい事◆

- ・会議等ででた問題、要望等についてその後どうなったか、経過、結果を知らせるようにしてほしい。
- ・介護福祉士の資格を取りたいので、勉強に必要なことなどいろいろアドバイスを頂きたいです。
- ・担当する方の情報を詳しく知っておきたい。



◆仕事について◆

- ・年齢的に出来る仕事、出来ない仕事がある。
- ・もっと仕事がしたい。
- ・60H超過の3000円がなくなったのが痛い。
- ・研修生への対応にうまく応じる事ができなかった。
- ・夜勤の前半、後半でお金の差があるなどと聞いたので、それは大丈夫なのですか。

◆勉強したい事◆

- ・AEDの使い方など
- ・利用者さんのQOLを向上するためのマッサージができるような講座をしてほしい。
- ・ヘルパー2級の受講について
- ・緊急時の対応（呼吸器の扱い方等、バイタルチェックなど）
 - ・ガイドヘルパーについて勉強したい。資格をとりたい。
- ・他の利用者宅ではどのようなケアをしているか勉強してみたいです。
- ・キネステ講座はとても興味があります。（体位交換、おむつ交換など）
- ・重度の認知症（声掛けの通用しない方）の方への対応の仕方
- ・最近のがん治療について
- ・介護内容を今一度見直してみたい。
- ・文字盤の勉強がしたい。

◆職場について◆

- ・横のつながりが無いように思う。
- ・同じ利用者さんに入っている夜勤のヘルパーさんとの交流がない。
- ・年に2回くらいは、利用者さんごとに担当ヘルパーさんたちが集まり話し合いをしたい。
- ・ラインケアしていただくことが今後お互いが活発に活動していくには必要であると感じております。
- ・利用者さんの状態が不安定な時はサ責や家族と話し合う場をもってほしい。
- ・他の担当ヘルパーとのコミュニケーションが取れるように年1回は顔合わせをお願いします。



◆事務所に対して◆

- ・常に職員が日中は必ず事務所にいる（緊急シフト変更除く 体制を確立してほしい。※たとえば、水曜日は、〇〇さんがいつもいる！となると利用者さん、ヘルパーさんも安心して連絡ができ、様々な面においてスムーズに事が運ぶと思います。
- ・事故、苦情を減らすと共に利用者さん、御家族に喜ばれるケアをしていくように努めてもらいたい。

- ④ 苦情やヒヤリハットから安楽な介護の提供、及び危険のない安全な介護についての知識を学び、様々なケースに柔軟に対応できるようになる。 (管理者 高橋直子)

自立支援ネットワーク わの会

私たち“わの会ネット”の役割とは

障害を持ちながら地域で暮らす A さんの心配事です。A さんに限らず、何らかの障害を持って地域で暮らす人に共通する悩みかもしれません。「今までどおり自分の家で暮らしたい。でも一緒に暮らしている子どもたちに迷惑をかけてしまわないだろうか。子どもに今の家をゆずって、自分は施設に入ればいいのか？でも、やっぱり・・・」「デイサービスに通っているのは楽しい。でも、楽しみを買っているのではないか。自分をもっと社会の役に立ちたい」。A さんは制度を利用し福祉サービスを受けることで生活が安定してきました。しかし、サービスの受け手となっているだけでは解決できない不安がそこにはあります。

制度を利用し支援を受けなければ、障害を持ちながら地域で暮らすのは難しい。しかし、自分が生きたいように生きて（この場合「社会の役に立ちたい」気持ちです）。これは自立を目指す人間の悩みです。おそらく、A さんが自分のすべきことを自分で選び、自分で決定し、自分で責任を持つことで解決されていくものではないでしょうか。でも、どうすればそれは出来るのでしょうか。

府中自立支援ネットワークでは今まで、生きがい活動や交流活動、学習活動の実践に力を入れてきましたが、プログラムを提供するというスタンスだけ

では、A さんのような悩みに応え切れないように思えます。求められるのは、A さんが困ったときに頼ることのできる支援者です。それも、一人だけではなく複数いれば「あの人がダメならこの人、この人が難しいならあの人」と安心できるはずです。A さんの困りごととは何かを、A さんといっしょに考え、そしてそれを引き受けてくれる支援者を探し出して A さんとなぐることが、府中自立支援ネットワークの重要な役割の一つではないでしょうか。府中自立支援ネットワークわの会は前身である「府中地域福祉を考えるわの会」設立から数えて今年度で20周年を迎えます。今までやってきたことを振り返り、次に活かしてゆきたいと思えます。 (管理者 志鎌哲)



絵手紙教室

わの会相談支援

福祉サービスを利用するためには、たくさんあるサービスの中から自分に必要なものを選ぶことが前提となります。しかしそれは、耳慣れない専門用

語が飛び交う場に、障害を持ち援助を求めている人（多くは苦しい、困っている人です）が放り込まれる状況でもあります。

そしてその中から「選んで、契約してください」となったらどうなるでしょうか。契約の際には「重要事項説明」「契約書」を理解し署名、押印が必要になります。契約の煩雑さや不安は誰にでも経験があると思いますが、障害を持った状況ではさらに負担が大きくなります。

制度を理解し、味方につけ、自らに合わせて生活をデザインするための手伝いが必要です。バイタリテイのある人や家族なら自身で何とかできるかもしれませんが、しかし多くは何の情報も無いまま、場合によっては独りで、これからどうやって生活していくのか見当も就かない状況にあります。わの会相談支援ではそこをサポートし、その人が生きたいように暮らすための制度をその人に合わせられるよ

うマネジメントをしています。現在 31 名の登録があり毎月 10 件ほどの相談を引き受けています。相談は少しずつ増えています。

わの会相談支援で大切にしたいのは、「その人がどう暮らしたいか」です。そのための制度の利用にあたっては「説得されるもの」ではなく「納得できるもの」が必要と考えます。しかし、ヘルパーを始めとした社会資源や、本人が中心となれる仕組みの少なさも感じています。相談事業と並行して取り組まなければならない課題だと思います。

この仕事は介護保険におけるケアマネさんと同じ役割で障害者総合支援法では「計画相談」といいますが、福祉の海の水先案内人みたいなものです。お気軽にご相談ください。 (管理者 志鎌哲)

わの会研修事業

わの会研修事業は重度訪問介護従業者養成研修を行ってきました。この研修をきっかけに福祉の仕事に関わるようになった人も多くおられます。また、学びなおしのために、資格を持った人が聴講に来られることもあります。

この事業は、足りないヘルパーをわの会が自前で養成するべく始めました。特に、難病 ALS をはじめ重い障害を持った方が地域で生活するには 24 時間体制でヘルパーが必要になってくるため、人材は圧倒的に不足している状態です（これは現在も続いています）。自分たちで必要なものを、制度を駆使しながら、自分たちで作ってゆく「わの会活動」のひとつの成果であるともいえます。

わの会の重度訪問介護従業者養成研修は、体験しながら学ぶことと、利用者側の目線を大事にすることに力を入れています。ヘルパーが行うことが可能になった医療行為や、必要とされるコミュニケーションについて実際に使われている機器を手にとって学ぶことが出来ます。そして、地域で生活している当事者が講師となって、その暮らしを実例をもとに講義します。この講義を目的に受講された方もいらっしゃいました。今年度、重度訪問介護従業者養成研修は 4 回の開催を予定しています。福祉の仕事に就きたい方、福祉を改めて学びたい方、学びなおしたい方、新しいチャレンジをしてみたい方。是非とも受講して見て下さい。受講料は 20,000 円です。

【今年度の開講予定】

- 第 1 回目 5 月 7 日、8 日（終了）
- 第 2 回目 7 月 16 日、17 日
- 第 3 回目 10 月 1 日、2 日
- 第 4 回目 2 月 18 日、19 日

また、平成 30 年度に障害者総合支援法改定があり、同行援護に関しては、ガイドヘルパーの資格がないと続けられなくなります。ここに対応する 13 年前に開催していた視覚障害ガイドヘルパー養成講座の開催も検討しています。よろしくお願ひします。 (管理者 志鎌哲)



連絡先：わの会研修事業係
電話：042-360-3626
FAX：042-400-5088
MAIL：wanokai_net@live.jp

27年度を振り返り 28年度に生かすために

(1) 介護報酬削減により運営がヒリヒリです

①報酬単価が引き下げられ当法人の介護事業は毎月約10万円の収入減となってしまいました。

市内の小規模デイが数か所閉鎖されたところもあります。わの会では障害者分野の相談事業や訪問事業の依頼が増えたこと、デイサービスでは、日曜の開所も行いました。また日々の消耗品、光熱水費などの節約に努めたこと。さらには皆様からのご寄付の力も大きく、なんとか赤字決算にはいたりませんでした。運営経費のゆとりのなさが利用者様へのケアに影響しない様、創意工夫をし安定した事業維持のために努力をしてまいりたいと思っております。また、国や行政に対しては削減分を元に戻すように、働きかけたいと思っております。

②介護スタッフの処遇を改善するための加算は増えました、従ってわの会の介護保険事業の分野では数年ぶりにパート職員の時給アップに努めました。

(2) 国は介護度1、2の利用者から原則自己負担の計画 H30年度より

①訪問介護

ヘルパー事業は、平成30年から介護度1と2の方々は、原則自己負担とし、実際介護保険から外されるという計画が作られています。実施されると60分程度の利用で、月10時間の場合、24,860円払わなければならない、利用が著しく抑制されるのは必至です。さらに、一割負担をそれ以上に増やすことも検討されています。要介護1、2と言っても一人では外出できない一人暮らしの方も多くおられ、ヘルパーの訪問を頼りに在宅での生活をされています。

②デイサービス

要介護1、2のデイサービスを介護保険から外し、市町村の事業に移行させる計画です。すでに今年度より。要支援1、2は、そのようになりつつあります。デイサービスでは、友達との語らい、食事、入浴があつて日々元気で暮らしておられる方がほとんどです。国は、今年度中に意見を集め29年度に国会を通し30年実施の予定でいます。このようになってしまつては介護保険の制度があつても生活はズタズタ、介護保険料もかけ捨てだと言わざるを得ない人が多くなることでしょう。全国老人福祉施設協議会や初代老健局長堤修三氏など、多くの識者も反対の声をあげています、私たちも微力ながら介護保険を本当に生きていくための制度になるように、介護保険をこれ以上、悪者にしないよう努力していきたいと考えています。

(3) 熊本地震の被災者の皆さんに心からのお見舞いを申し上げます。

皆さんの生活が依然として厳しい状態にあることを連日の報道から知り心を痛めています。特に障害を抱えた人々の様子、避難所ではベッドがなく寝たきり状態の人、車椅子が使えない人、避難ができずに傾きそうな家で暮らしている人々の報道に。わの会では、長引く被災生活のために、募金活動を行なっています。全国障害者施設連絡会を通して被災者へ届けます。わの会事務所または、会費納入の際募金と記入の上、ご協力いただけますようお願いいたします。

(4) 今年20周年を迎えて～おかげさまで20年感謝の会開催～

わの会は、皆さんとともに20年の歩みを進めてまいりました。「おかげさまで20年感謝の会」をH29年3月19日に予定しております。又この1年はいろいろな取り組みを通して、あらためてわの会の役割を確かなものにしていきたいと思っております。よろしくごお願い致します。(常任理事 佐々木節子)



設立の当初からお付き合いのある人達にインタビューしてまとめました。

父が102歳、母が93歳で亡くなる直前まで デイサービスりんりに通いました

萩原茉莉子（栄町在住）



お母さんと散歩の茉莉子さん

母は、近くのデイサービスに通っていましたが、あまり気に入らなかったようで、面白くなさそうな顔をして帰ってきていました。

りんりに通うようになり、桃井さん（元スタッフ）にぶら下がり鼻歌まじりで帰ってくる姿に、家族としてはとても嬉しかった事を覚えています。

りんりんでは、散歩が何より良かったです。家族はできないことでしたので。父は、家ではムツリの人でしたが、車椅子に乗ってからも出かけることができ、蓮華畑で笑っている写真に父も楽しい時間があつたりんりの皆さんに感謝でした。

母は社交的な人ですぐ誰とでも仲良くなれるのですが、父は80歳過ぎまで現役で働いていたこともあり、寡黙な人で、母のことを「オーイ！」と言っていたのですが、90歳を過ぎた頃から「お母ちゃん」と呼ぶようになり、母と一緒にりんりに行くようになりました。

今では普通のことですが、父の頃はまだ中国との国交がない時代で、民間レベルでの日中貿易促進のための仕事をしていました。桃井さんは、中国で生まれ、中国から引き上げてこられた方との

こと、父の話をよく聞いて下さったようです。

そのように過去も含めて、引き受けてくださるスタッフに恵まれ、100歳のお祝いをして頂いたことは、いい思い出です。

母は、お洒落を楽しむ人でしたが、家では、気持ちの余裕もなく何もできません出した。りんりに通うようになってからは、アクセサリを引っ張り出しては、身に付けて出かけて楽しんでいました。

老いた親がりんりんという場で、周りの方と交流し、新しい人間関係を作れるのは家族にとってもとてもありがたいことでした。

父が亡くなり10年、母は7年になります。たまに連絡ノートを見つけると、とても丁寧に記録されていて、その頃の父を、母を思い感謝の気持ちでいっぱいです。りんりんが、これからも必要とされる人々のための発展されることを願ってやみません。

御両親を看取られた茉莉子さんについて

御両親と最後まで一緒に暮らしておられた茉莉子さんは、ご両親を語る時、いつも笑顔、笑顔です、今回も。これまでもそうでしたが、御家族3人での生活の暖かさや、お互いを大切になさっての暮らしであったことを察します。訪問時にとっておいて下さった当時の写真や、お便りを手にほっこりの時間を持たせていただきました。感謝です。

（佐々木節子）



蓮華畑にて故萩原定司氏

